

第1章 理念・目的・教育目標

昭和48年4月に金沢医科大学附属看護学校として開校し、昭和63年4月専修学校専門課程に昇格して、金沢医科大学附属看護専門学校となって現在に至っている。

校舎は金沢医科大学の構内にあり、設備は大学水準と高く評価されている。教員も充実しており、専任教員のほか、医学部の教員、大学病院の看護師が専門領域の講義・実習を兼担している。

本校の教育目標は金沢医科大学の理念・目的を踏襲し、看護師として「知識・技能の習得」とともに「社会人としての人格の育成」を図り、そして「社会に貢献」することに置いている。

【将来の改善・改革に向けての方策】

近年、急速な医学の発展に伴い、医療の専門化や細分化をもたらす一方、少子・高齢化による社会基盤や疾病構造の変化により、求められる医療の概念も大きく変化してきている。このような社会環境の変化の中で、医療・保健・福祉全般に携わる看護職者の役割はいよいよ範囲が増大し、且つ高度の知識や技術を兼ね備えた専門性が求められている。

金沢医科大学附属看護専門学校は、昭和48年4月に開校して以来、質の高い看護師を多数輩出してきたが、こうした時代の要請に応えるため、平成19年4月、金沢医科大学看護学部を開設する予定である。これに伴い、看護専門学校は平成19年度から学生募集を停止することとなる。

看護学部では、これまでの看護専門学校で培ってきた人間性豊かな看護職者の育成の精神を受け継ぎ、更に発展していくよう、医学部と共に、本学病院と密接な連携を図り、最先端の医療チームの下で実習を行うことにより、チーム医療の一翼を担う質の高い看護職者の育成を目指していく。